

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット1		
所在地	大分県杵築市大字溝井1609番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じていただくように季節に応じた行事を計画し実施している。行事は、ユニット合同で行い気分転換と他者との関係づくりに努めている ・委員会活動(教育、リスク安全衛生、レク、給食)を通して、利用者様一人ひとりの生活の質の向上に努めている。 ・月に一度連絡事項として、利用者様の近況を書面で報告している ・ご家族様より要望があれば施設での看取りを行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・本人の残存能力を維持するため、野菜作りや家事などを利用者と一緒にこなしている。 ・日常生活や行事での様子を撮影し、DVDにして運営推進会議や家族会、地域の民生委員、市などに報告している。家族からも喜ばれている。 ・施設内での研修や外部講師を招いての講義など、職員の研修に努めている。 ・施設外周の清掃活動を今年から利用者と一緒に始めており、利用者地域の人と親しくなるように図っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里全体の理念に基づき、グループホーム独自の理念を掲げている 理念は常に目に付く場所に掲示し、職員の意識付けを行い業務に取り組んでいる	グループホーム独自の理念を作り上げ、職員の意識付けを行なっている。理念には本人・家族への誠意ある対応、情報の公開、職員の研鑽により質の向上を図るとあり、職員会議で実践を確かめている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃活動への参加、避難訓練の際に地域の方に呼びかけ協力を得ている また夏祭りを開催する際に地域の方に参加していただき、交流の場を設けている	事業所周辺の清掃を利用者と職員が一緒に行なって、地域の理解を得ている。夏祭りや避難訓練の参加呼びかけなど、地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、避難訓練、夏祭りなどを通じて認知症の方をどのように支援すればよいか理解してもらったり、地域から孤立しないで地域の方と接する機会を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、市の担当者、区長、民生委員、家族の方に現状、活動報告を行い、意見や要望を伺い、検討、改善し活動に活かしている。議事録はグループホーム日よりして配布している	2ヶ月に1回開催し議事録も詳しく記録している。市職員、区長、民生委員の他、利用者家族に全て案内を出し複数家族の参加を得ている。事業報告を行ない、意見や要望を聞き、ケアの実践に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査や地域ケア会議、運営推進会議時に情報を伝え、意見や助言をいただき協力関係を築いている	認定調査やケア会議で市の担当者と困難事例などについて相談し、助言をもらっている。積極的に現状を報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、申し送りなどを通じて共通認識を図り、利用者の安全面を考慮して自由に過ごせるよう取り組んでいる	年に2回、事業所内での研修を行ない、身体拘束の弊害を職員に理解させている。安全面に配慮するとともに、自由な動きを妨げないよう施錠やベッド柵をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会が中心となり、外部講師による勉強会を行い虐待防止関連法について学んでいる ミーティング、申し送りなどを通して虐待につながる事がないか検証している		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修で学んだことを他職員に伝え知識の拡大を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が不安に思うことや要望があれば、事前の施設見学時に疑問に答えている 契約時、運営規定、重要事項説明書、契約書をもって説明し同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時、施設に対しての意見、要望などを気兼ねなく話していただき運営に反映させている	運営推進会議や家族の面会時に意見を聞くほか、毎月の請求書を送る際、手紙を添えて利用者の様子や体調などを知らせている。家族からの要望を検討し、ケアに反映させて家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、代表者、事務長、各部署の管理者、職員が出席し事業に対する全体会議が開催されている ユニット内で発言しやすい雰囲気づくりに努めている	月に1回の全体会議や月に2回の責任者会議で職員の意見を検討している。一例として、職員の定時退社の希望を実現させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を給与に反映させることにより、スキルアップに繋げている 業務終了後は、速やかに退社できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じて、外部の研修に参加している 内部研修は教育委員会が中心となり、計画し実施している 実習生の受け入れを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半年毎に持ち回りで同市内の他施設との意見交換会を開催している その際相互訪問などを通じて交流を深めサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、利用者と面談し意向を聞く様に努めている。入所後も話をよく聴き、小まめに声かけをし信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活習慣等の情報や家族が不安に思っていること等の聞き取りを行っている。必要な時には電話で情報交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と面談後の情報をアセスメントシートに反映させ、何を必要としているのか、課題を抽出し本人に合ったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムを大切に、作業やレク、会話の時間を作っている。 学ぶ事も多いので、相談し合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有できるように、家族に近況報告の手紙を月に1回出したり、行事への参加の声かけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お祭り等地域行事に参加することで、家族や馴染みの人との交流ができるように努めている	地域行事に参加したり、友人・知り合いの訪問があった時には、継続して貰えるようグループホームとしてバックアップしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や相性等を把握し考慮した上で、席の配置をしている。 また、個々の状況を見て臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの要望があれば、情報提供などしている 亡くなられた方には、夏祭りに先立ち行われる供養祭に案内を出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話を通して、思いや希望を汲み取るようにしている 何気ない言動や態度を記録し職員間で共有できるようにしている	日常生活の会話から本人の思いや希望を汲み取り、業務日誌に書いて職員が共有している。また、本人が希望を表出できるよう、時にはマンツーマンで一緒に過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前担当者の事業所からの情報提供を共有し、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の持っている能力や現在の状態を把握し、必要に応じて担当職員や管理者を中心に話し合いをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族より意向を聞き取り、カンファレンスを実施し、介護計画に反映させている 目標に沿ったモニタリングを行い、現状に即しているか検討している	本人、家族の意向を聞き、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。3ヶ月に1回見直し、現状に即しているかを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別ケア記録に記載し職員間で情報を共有している 状態に変化がある場合は、改善するまで記録し、介護計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携として、訪問診療、訪問看護、訪問歯科を利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域の方に夏祭りなどの行事を通じて交流を働きかけている 2か月に一度の運営推進会議にて、区長、民生委員、家族を交え意見交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人、家族の意向を聞き、希望するかかりつけ医による定期的な往診を受けている 必要に応じて他科受診を行っている	本人や家族が希望するかかりつけ医の定期訪問診療を受けている。皮膚、歯科など他科の受診は家族か職員が連れて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や、訪問看護師に利用者の状態を報告、相談し健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療・介護連携シートを作成し情報を提供している 退院に備えて、医療機関、家族と連携し退院時の受け入れをスムーズに行えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合や看取りの方針について説明している 日常的に医療行為が必要になった場合や終末期になった場合は、家族、主治医と相談し対応を相談して。要望があれば施設での看取りを行っている	入居時に重度化や看取りを家族に説明して話し合いを行なっている。日常的に医療が必要となった時は入院するが、医療の必要がない看取りは、希望があればグループホームで行なうこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時の対応マニュアルを作成し職員の周知、徹底に努めている 消防署の協力を得て、AED、救命救急法の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	リスク、安全衛生委員会が中心となり、消防署の協力を得て利用者と一緒に避難訓練を実施している 家族や地域の方の参加も呼び掛けている	年に一度の消防署との避難訓練のほか、事業所内でも利用者と一緒の訓練を行なっている。避難経路の確認や、夜間の火災を想定して地域への参加も呼びかけている。備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には、名字で声かけするが、本人、家族の了解を得て、愛称で呼ぶこともある 自尊心を尊重し失礼のないよう心がけている	声をかける際にどういう呼び名がいいか入居時に聞いている。基本は名字で呼び、愛称や下の名前で呼ぶこともあるが、自尊心を尊重し失礼のないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えに対して話しやすい環境づくりに努めている 表出ができない方には、表情や動作から意思を汲み取るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけしながらその人のペースで生活できるように支援している 利用者の希望がある場合には、希望に沿えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った服装や髪の手入れ、整容に気を付けて支援している トイレ誘導やオムツ交換の時は、衣類を整えるように気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内でできた野菜と一緒に収穫している おやつ作りを手伝ってもらうこともある 給食委員会が、年2回嗜好調査を行っている	食事前の体操を行ない、食欲を刺激して楽しく食べる。法人施設で作った食事を運んでいるが、収穫した野菜を使って一品作ったりおやつを作ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、毎飲食後記録している 個々の状態合わせて食事形態を変えている 食事量の少ない方には、栄養補助飲料や好きな物を捕食として提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人でできる方には声かけをし、できない方は、状態に応じて介助している		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンや間隔の把握に努め、定期的に声かけや誘導を行っている 排泄用品が適切に使用されているか検討している	排泄のパターンに応じて定期的な声かけを行なっている。紙パンツを使用している利用者が多いが、トイレ誘導により使用量を減らせるように職員が心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物のチェックや工夫をしている 排泄困難時には医師の指示に従い薬を内服している 食物をしっかり噛んだり水分をしっかり取るよう声かけしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を計画している 可能な限り状況や希望に応じて、柔軟に対応している 個人の状態に合わせた支援をしている	ゆっくり入ってもらえるよう、1日に3人の目安で、週2回、午後に計画している。個人の希望や汚染があれば、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせ就寝時間を調整したり、必要な時は午睡をとっている 夜間眠れない方には、会話をしたり、傍らに寄り添っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬効や副作用など把握するように努めている 処方変更があった際は、申し送りに記入し全職員が把握するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味を日々のレクリエーションに取り入れ、気分転換や楽しみを感じていただけるよう工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かけることはできていないが、希望があれば、周辺の散歩など可能な限り行っている	外出の機会が減っているが、できるだけ季節や外気に触れてほしいので、個別に周囲の散歩に出かけたり、声をかけて買い物に同行している。	

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、小口現金として事務所に預かり管理している。必要時本人が使えるようにしている。希望する品が高額の場合は、家族と相談している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があればその都度対応している。電話の際は子機を利用し居室で会話できる様プライベートに配慮している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を出るとホールになっており、ゆったりとした空間になっている。壁面には、行事の写真を掲示したり、季節を感じて頂ける壁面づくりをしている	ホールはゆったりとした造りになっており、壁面に行事の写真を貼って、利用者や家族に見てもらい喜ばれている。室温も適度に設定し、掃除や安全面も配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、テーブルやソファでの居場所を選べるようにしている。好きな時に他者との会話やテレビ鑑賞を楽しめるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の装飾や物品の配置は、本人、家族と相談し安全で心地良い環境で過ごせるようにしている	使い慣れた物を居室に置き落ち着いた雰囲気にしていく。担当の職員が管理をして衣類の入れ替えなどをするが、本人に聞きながらやることにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット2		
所在地	大分県杵築市大字溝井1609番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成31年1月24日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内で畑を作り利用者様と一緒に季節の野菜作りを行っている。また厨房でその野菜を調理し、利用者様に提供して収穫の喜びと季節を共に感じている。施設での日常生活やレクリエーション風景を写真、動画撮影しプロモーションDVDを作成して、運営推進会議や全体家族会にてご家族、市、区、民生委員に報告している。教育委員会を中心に施設内勉強会や外部講師を招いての研修、また外部研修を通じて職員の知識、技術の向上に努め利用者様、ご家族様のニーズに応える事ができるように研鑽している。今年より施設外周の清掃活動を利用者様と一緒に実施している。今後、利用者様が地域住民の方々と一緒になって活動を行っていかれたらと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム初音の里 ユニット1に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里の理念、グループホームの理念を見えるところに掲示し意識付けを行っている 利用者に還元できるように努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設は工場が隣接しており、民家とは少し距離がある為日常的な交流はできていないが、事業所で開催する夏祭りや避難訓練への参加を呼びかけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを開催し、地域の方に認知症の方と接する機会を持っていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している 市の担当者、区長、民生委員、家族、利用者の出席により現状報告を行い、意見、要望をいただき検討、改善している 議事録は配布している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	個別のケースや困難事例について、随時相談し助言を受けている 認定調査やケア会議で情報を伝え意見をいただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや申し送りを通して共通の認識を図り、安全面に配慮し自由に行動できるように取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや申し送りを通して虐待につながる事は無いか検証している 小さい事も見逃さないように職員間で注意している		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を通じて職員へ制度について説明を行っている ご家族の相談を受けることもある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定について重要事項説明書を持って説明を行っている ご家族の疑問や不安に対して理解納得していただけるように丁寧に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と共に手紙を添えて施設での生活の様子、体調などをお知らせしている 来設時や運営推進会議で意見、要望を聞き、検討、改善している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回実施される全体会議や月2回の責任者週会議にて具体的に事例を挙げ話し合いの場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の努力、実績などは評価されているが、給与に反映されていない現状がある この職種にやりがいを感じている職員は少ないので、今後更に条件や環境の整備が必要となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は、職員の経験年数などに応じて参加している 施設内研修は、教育委員会が計画、実施しており、外部講師を招き定期的に研修を開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設との相互訪問、勉強会への参加を通じて意見交換会を行いサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者より事前に本人や家族に話を聞いている 本人が安心して気持ちを伝えられるようその都度傾聴の姿勢を心がけ、日頃の様子を良く観察して支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より本人の生活習慣や家族の思い、不安を聞き取り、早期の信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より相談された時には、速やかに対応策を職員で検討し管理者に報告し必要な支援を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の身体状況、生活リズムに合った作業やレク、会話の時間を作っている 日々生活している中で本人の知恵を頂き、感情を表出できる関係づくりをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要求に対してキチンと向き合い話をして、本人を支える良い関係づくりができるように心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内外の行事、夏祭り、運動会に参加することで家族や馴染みの人との交流ができるよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の気持ちを大切にして、お互いに思いやれるような人間関係を築けるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でもご家族から申し出があれば、情報を提供し相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや要望に沿うよう支援している 意思伝達が困難な方は現在の状況やこれまでの生活状況を考え検討し支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より聞き取り記録し、本人との会話の中から情報を集め照らし合わせ把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動きや会話から現状を把握し訴えを大切にしている ケース記録、介護記録、申し送りに記載している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、本人と家族の意向を元に現状に即した介護計画書を作成し、3か月、6か月評価をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の介護記録に日々の状況を記録し情報を共有している 随時、ミーティング、カンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人の状況や変化に応じ臨機応変に対応できるように支援やサービスに取り組んでいる		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域の方に夏祭りなど行事を通じて交流を働きかけている また、2か月に1回地域の民生委員、区長、家族を交え運営推進会議を通して意見交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を聞き、希望するかかりつけ医による定期的な往診を受けている また、必要に応じて他科受診を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と常時連携を取れるようにしている 利用者の状態を報告、相談し健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の普段の様子や支援方法に関する情報を提供している 家族、医師、看護師と連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れができる様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合は対応が困難な為家族と話し合い医療機関へ入院することになっている また、家族の希望によりグループホームで看取りを行うこともある		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時のマニュアルを作成しており、職員の周知徹底に努めている また、消防署の協力を得て、AED救命救急法の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	リスク、安全衛生委員会が中心となり、消防署の協力を得て、利用者と一緒に避難訓練を行っている 運営推進会議などを通して家族、地域の協力も呼び掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、失礼のないように声かけしている 基本的には、名字で声かけするが長い方は愛称や名前と呼ぶことがある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表せる方には声かけし、話を聞いている 自分の思いを上手く表現できない方には、ボディランゲージを使い意思表示に気付くように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の希望がある場合には、その要望に沿える様に努めている 声かけをしながらその人のペースで過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪や入浴時髭剃りを行っている トイレ誘導やオムツ交換時は衣類を整えるように気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会が年2回嗜好調査を行っている 個々の状態に合わせて食事形態を変えている 食器洗いや台拭き等できる方は職員と一緒にやっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、毎飲後記録している 不足がちな方は、その方の好きな物などを摂取してもらっている どうしても摂取量の足りない方は、主治医、栄養士に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後声かけ、見守り支援しながら、自分でできる方には声かけし、できない方には職員が介助している		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターン、間隔の把握に努め、定期的な声かけや誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物のチェックや工夫をしている 排泄困難時は、医師の指示に従い状況に応じて緩下剤を内服していただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴をしているが、可能な限り希望や状況に応じて柔軟に対応している 個々にあった入浴の支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状態に合わせて午睡をとってもらっている 生活のリズムが保てるように夜間眠れない方には、会話をしたり傍らに寄り添うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的や副作用など把握するよう努めている 薬の変更があった際、記録し全職員が把握するようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合わせ、生活歴や趣味を活かせるように努めている また、日々のレクリエーションや季節に応じたレクリエーションにて気分転換を図り楽しみを感じて頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望によって、戸外に出かけることはできていないが、施設周辺の散歩には可能な限り出かけている		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口現金を預かり、事務所で管理している 金銭管理の能力に応じ、外出の際は、職員が付き添いで支払いの見守り援助を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や、必要性を考慮し電話でのやりとりを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁面に季節感のある装飾や行事の写真を飾り、いつでも見れるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性、好きな場所を理解し、落ち着ける場所への配慮を行っている 座る場所はほぼ決まっており、落ち着いて過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を部屋へ置くようにしている 写真や飾りを貼り、温かい雰囲気が出るようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況に応じた過ごし方ができるように工夫している 個々の力を活かし安全かつ自立した生活が送れるように工夫している		